

## 令和三年度 学校評価 勇志国際高等学校

勇志の心	国を愛し 郷土を愛し 人を愛する
教育方針	親孝行する青少年たれ 志ある人間たれ 誇りある日本人たれ 役に立つ国民たれ 尊敬される国際人たれ
指導方針	生徒の長所を認め長所を伸ばすことを、生徒指導に当たっての指針とする。短所を指摘し矯正する方法は採用しない。

評価基準	A・・・ほぼ達成	B・・・概ね達成	C・・・やや不十分	D・・・不十分
------	----------	----------	-----------	---------

評価項目	具体的方策	達成状況	評価	次年度への改善点
学習指導 1 道徳教育の確立	①科目として教育課程に入れている。 「高校生のための道徳 この世にダメな人間なんて一人もない!!」を道徳教科書として使用している。	①開校以来、道徳の授業を行っている。充実した道徳教育ができています。	A	日本人としての誇りを持つ生徒を育成するために、日本の正しい歴史・道徳教育を今後も継続する。
2 スクーリングの充実	②本校で実施できなかったスクーリングを、各学習センターの登校型で実施した。	②登校型スクーリングについては、本校1回、各学習センターにて6回実施。通学生については、通学時に実施した。	A	コロナウィルスの影響で変更をやむを得ない点も多くあった。令和四年度の集中型スクーリングは10月以降実施予定であるが、あらゆることを想定し、柔軟に対応していく。

別紙資料⑤

<p>3 ネット活用の充実</p>	<p>③ネットライブ授業に加え、「なりたい自分になる」ためのG r o w t h P r o g r a mオンライン授業を開始。個別最適化につながる授業を展開している。 また、生徒・保護者とのコミュニケーションをとるためのオンラインツールを導入。</p>	<p>③令和三年度ネット授業の延べ参加人数は3488名（前年度は7177名）である。 G r o w t h P r o g r a mの延べ参加人数は225名である。 ネットで生徒・保護者面談、ガイダンス、ホームルームも実施した。</p>	<p>B</p>	<p>ネット授業延べ参加人数は前年度より減少。1人でも多くの生徒が参加するように授業内容や時間割等、常に創意工夫を重ねる。 G r o w t h P r o g r a m受講者増につなげるためサイト作成、声掛けの強化を行う。</p>
<p>4 各種検定受験指導</p>	<p>④科目として漢字検定、英語検定、パソコン検定を教育課程に入れている。各種検定合格を目標設定し、受験を勧める。</p>	<p>④令和三年度の各種検定は受験者460名、合格者245名である。（前年度は受験者530名、合格者284名） 上位級の合格 英語検定2級、準2級、漢字検定2級、ワープロ検定1級、準1級、情報処理技能検定1級、準1級、数理技能検定2級、パソコンスピード検定1級、準1級、日商簿記検定2級</p>	<p>B</p>	<p>前年度と比較すると受験者が減少。その一方、上位級の合格者が増加した。資格挑戦・上位級合格につながるシステムを構築する。</p>
<p>5 弁論大会</p>	<p>⑤平成28年度までは熊本学習センターのみで開催していたが、平成29年度から他学習センターも参加し全国弁論大会として開催している。令和三年度は第9回弁論大会を開催した。</p>	<p>⑤天草本校、熊本、福岡、千葉の4ヶ所をネット中継し、リアルタイムの弁論大会を実施した。本選は7人の弁士が発表した。</p>	<p>A</p>	<p>弁士に限らず、視聴した生徒にとっても成長の場となった。</p>

別紙資料⑤

キャリア教育	<p>① 進路指導部を中心に、学年に応じた進路ガイダンス等、継続的な進路指導を行う。また、「ネット予備校」で、個別カリキュラム制の受験対策を行っている。</p> <p>② 多方面で活躍する方をお招きし、講話を実施。また職業体験を導入。</p>	<p>①令和三年度の進学希望者の決定率は84%、就職希望者の決定率は88%、進路決定率は86%である。</p> <p>② 講話については、9名の方をお招きした。生徒の職業観の育成に大きくつながっている。</p>	<p>A</p> <p>B</p>	<p>国公立大学、上位私立大学の現役合格実績を出すため、「ネット予備校」の充実・生徒への周知を図る。 指定校推薦を有効に使う。</p> <p>職業体験参加者を増やすことが必要。体験箇所も大幅に各所で増やしていく。</p>
生徒指導	<p>①【いじめ対応に関する基本原則】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・いじめを絶対許さない学校</li> <li>・教職員はいじめを未然に防ぐ深い洞察力と継続した行動力を持つ</li> <li>・生徒はいじめを見たら止める勇気を持つ</li> </ul> <p>②ソーシャルメディアガイドラインに沿って、定期的に注意を呼びかける。 業者と提携し、検索・監視を実施。 業者によるリテラシー講座を実施。</p>	<p>①いじめがあった場合、全教職員で情報を共有し、一丸となって継続した指導を行う。 いじめの実態把握と防止のためにアンケートを実施。 ネットいじめに注意していく。</p> <p>②業者からの報告等で、不適切な書き込みが発覚した場合、削除及び今後への指導を行う。</p>	<p>A</p> <p>A</p>	<p>いじめに対しては全教職員が毅然と対応し、いじめを許さない校風を構築する。 情報共有システムの一層の充実を図る。</p> <p>不適切な書き込み等から生徒を守るために、次年度も業者と提携する。 業者によるネットリテラシー講座を実施する。</p>
1 いじめ防止				
2 SNS指導				

## 別紙資料⑤

3 親孝行の奨励	③「親孝行する青少年たれ」を实践するため、平成26年度から「親孝行コンクール」を実施している。	③令和三年度は「第8回親孝行・絆作文コンクール」を実施し、916名の応募があった。(令和二年度応募数685名)	A	次年度は親孝行コンクール950名以上の応募をめざす。 親孝行する生徒を育成する。
安全管理	登下校時の交通事故注意喚起を行っている。 また、コロナウィルス対策(校内でのクラスター阻止)などを実施している。	大きな事故等なく、運営することができている。 クラスター防止策のため、空気清浄機や非接触型体温計などを各所に導入した。またコロナウィルス感染者発生時のマニュアル等を作成。	A	事故・災害・感染症等に対し、平常時よりリスク管理を徹底する。
情報提供	オンライン上で確認できる学校通信「ポプラ通信」を発行。 HP等でも随時、情報提供を行っている。	学校通信については、毎月発行。内外に向けた情報提供ができている。学校、生徒、保護者間におけるコミュニケーションツール「Classroom」「Slack」「Gmail」「LINE」を利用することで円滑な情報共有につながっている。	A	次年度も引き続き各種情報提供をしていく。
地域との連携	「絆の日」では教職員・生徒と地域の皆様と共に清掃活動を行っている。 地域の各種行事へ参加している。	東日本大震災以降、毎月11日を中心に「絆の日」として清掃活動を行っている。既に114回の活動を終えた。	A	今まで以上に地域の皆様に対する感謝の念を忘れず、取り組んでいく。

別紙資料⑤

<p>教職員研修</p>	<p>学内においては、校長による勉強会を毎月実施している。研修旅行を計画していたが、コロナウィルスの影響で中止とした。</p> <p><b>【勇志国際高校の教職員の心得】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 教育者は、聖職者である。</li> <li>2 教育者は、自らを鍛錬し、生徒に対しては長所を伸ばす指導法を基本とする。</li> <li>3 教育者は、自己責任を行動原理とする。</li> <li>4 教育者は、学校の健全な発展に努める。</li> <li>5 教育者は、教育は国家百年の大計と心得る。</li> <li>6 教育者は、生徒の教育を本位として行動する。</li> <li>7 教育者は、教育を通して利他の精神に基づく文化を創造する。</li> <li>8 教育者は、国を愛し、郷土を愛し、人を愛する。</li> <li>9 教育者は、正しい歴史観と国家観が教育の基本と認識する。</li> <li>10 教育者は、問題行動に対しては、毅然とした態度で適切な指導を行う。</li> </ol>	<p>教職員の意識が確実に向上している。勉強会はネット会議システムを利用している。</p> <p>全教職員が心得を正しく理解し、実践できている。</p> <p>外部実施の研修等にも積極的に参加している。</p>	<p>A</p>	<p>次年度も同様に勉強会を実施する。全教職員が使命と責任を果たせるように努力を続ける。</p>
--------------	--	---	----------	--